

買物は投票だ！  
資源循環の社会経済へ  
地産地消を



News !

2024.4.27

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク

●〒565-0842 吹田市千里山東 1-14-26 ほぼエコcafé&Gallery NAZ(ナーズ)内

●年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)

●郵便振替 00920-8-154437 ●TEL06-7222-8005 ●E-mail greencon@g2.xrea.com ●<http://www.greencon@g2.xrea.com>

公共水道の役割と海・川プラスチック問題 3/23 リフィル大阪研修会報告



## プラスチック汚染に立ち向かう

### 脱プラスチック、そしてサーキュラーエコノミーへ

講師 原田禎夫さん 同志社大学経済学部准教授

NPO プロジェクト保津川代表

原田先生は、お住まいの亀岡市で市民・企業・行政と連携して脱プラスチックを実践しています。

亀岡市は、プラスチック製レジ袋の提供禁止条例(有料も)を2021年に全国初施行した環境都市です。

現状を知ることとして、海洋プラスチック汚染図を示された。プラスチック製品生産地、消費地の海、太平洋 日本列島—ハワイ諸島—アメリカ大陸。日本海、東シナ海、インド洋、アラビア海、紅海、黒海、地中海、大西洋と人が住んでいるところほどの海も汚染されて、本来の青い海は、南極海、北極海と人が住んでいないところだけという衝撃の海洋図からはじまりました。

便利さと利潤を追求する大量生産と大量消費の半世紀、ブーメランのごとく人間へ影響は、健康への影響調査(英ハル大学)によると、微小プラスチックを年5万個を摂取している可能性があり、人の胎盤からマイクロプラスチックが初検出されたと公表されました。

#### プラスチック汚染は陸から川を通じて流れて出した生活ごみ

日本のプラスチック製造量は、世界第2位、しかしリサイクル率は9%しかできてなく、ほとんどが燃料補助剤として家庭で出すごみと焼却されています。その分量は1回のみで捨てられているのです。

#### サーキュラーエコノミーとは

私たちのこれからの暮らしを持続可能にしていくには、使い捨てから物が再生し続ける経済環境です。製品・部品・資源を最大限に活用し、それらの価値を目減りさせることなく再生・再利用し続ける循環経済のサイクルを作り出すことです。2023年12月には脱プラスチック国際条約が策定され、この秋には、脱プラゼロの目標年次2040年にむけ政府間パネル会議が開催されます。EUより歩みが遅い日本での拡大生産者責任を明確に示していくために、様々な法整備と制度を作り出し政府、自治体、市民・消費者と企業との合意形成にむけたテーブルが急務となっています。

ごみアプリを使って個人でいつでもできるごみ拾い方法や、ニューヨークの小学生が市を動かしプラスチック規制の条例をつくった映画上映会をしようなど提案されました。

## 1) 緊急報告 能登地震水道復旧支援活動から

～水は基本的人権のひとつ～

NPO 水政策研究所 助田武洋さん

里帰りした家族と久しぶりに、こたつを囲みながらくつろいだ元旦、震度7の大きな地震、津波が襲いました。半島という地形で限られた幹線道路や港湾も大きな被害を受け、救援活動、復旧活動が進まない中で、上水道の復旧と給水に全国から支援活動がされました。大阪市水道局に働く人たちで構成する NPO 水政策研究所の助田さんから能登市での支援報告がありました。被災地と 130 km 離れた金沢から早朝 5 時に出発して能登の道路下にある水道管の漏水箇所を見つけ管を応急修復する作業で、6 時間ほどの作業を終了し宿泊地に戻るのが 21 時頃。5 日単位で交代し引き継ぐ活動は 4 月中旬頃まで続くとのこと。上水道の耐震化は国の大きな課題だが、石川県は 4 割と進んでおらず、復旧までには時間を要するとのこと。都市部の密集地域と違い、点在する集落での上下水道の維持は、国レベルでの今後大きな課題となってくるとのことでした。当たり前のように蛇口をひねれば水がでる日常でしたが、老朽化した上下水道管の耐震化問題を身近に感じました。

## 2) 吹田でのマイボトル容器おとくなマップと

### 無料給水機マップの普及活動について

アジェンダ 21 すいた 水川 晶子さん

大阪府下では、早くから公共施設（駅含む）での無料の給水機の設置がすすんでおり MAP が公開されています。さらに、マイボトルを持参すればコーヒーなどの割引特典がある MAP づくりもして、マイボトルや容器持参者を増やしていくことで、脱プラスチック容器をすすめています。店舗へのアクションは、最初はためらいますが、SDGs が浸透してきたので、環境配慮の店舗としてイメージ UP に繋がるので一回だけの利用で使い捨てられるプラ容器やペットボトルの削減を市民に呼び掛けていきます。

## 3) 大阪大学における給水機設置をクラウドファンディングで実践中

～給水機・マイボトルが当たり前の大学をつくり、より持続可能な社会と未来に貢献する～

大阪大学マイボトル推進プロジェクト LEE CHIA YING さん

豊中キャンパスは、全学部の 1 回生が 1 年間学ぶところなので、生活行動を変えていくにはまずここでの実現をめざして、大学との交渉をしてきました。機器購入費用や設置場所、維持管理等をだれがどうしていくのか。さらに実現していくには、大学や在学生の認知度の高まりが必要なので、2022年の既存の給水機のアンケートや 2023 年度は 7 月期間限定での給水機設置と SNS アンケートで要望が大きく実現に向けて動き出しています。まずは設置費用と維持費を申請し 6 月以降設置予定、8 月に工学部の公認団体をうけクラウドファンディングで次年度以降の維持費、そして企業協力の要請などもしていく予定です。



👉 エル  
おおさか  
で約 50  
人が参加



まこも茶  
を脱プラ  
としてスチ  
ール缶試  
作品で試  
飲